

第9回つくばリサイタルシリーズ報告書

ヴァイオリン×打楽器×ピアノ 一日だけの異色の競演

1. つくばリサイタルシリーズ実行委員会について

つくばリサイタルシリーズ実行委員会は、つくば市においてプロの演奏家によるクラシックコンサートを企画・運営する筑波大学学生団体である。つくばの学生および市民が経済的に大きな負担を伴わず、本物のクラシック音楽を鑑賞できる機会を提供することを目的としており、2020年度で9年目を迎える。通常、プロの演奏を聴くためには、高額なチケットを購入する必要があるため、クラシックに対して堅苦しい、行きづらいイメージを抱く人も多い。その意識を変えるため、つくば市民にとって身近な場所で、手頃な価格で本物のクラシックを楽しめることを目標とした本シリーズの基本方針は、例年のアンケート結果を通じて来場された皆様からも高い評価を受けている。企業協賛やクラウドファンディングといった手段により資金を確保し、可能な限り低価格かつ高品質な演奏会を実現している。

2. 今年度事業の概要

事業名：第9回つくばリサイタルシリーズ

ヴァイオリン×打楽器×ピアノ

実施日：2020年12月12日(土) 13:15開場 14:00開演

会場：つくばカピオ ホール

価格：一般1,000円 学生無料(要申し込み)

出演：福田廉之介(ヴァイオリン)

會田瑞樹(打楽器)

高橋優介(ピアノ)

曲目：ベートーヴェン作曲 ロマンズ第1番 ト長調 作品40

シューベルト作曲 ソナチネ ニ長調 op.37-1 D.384

江藤光紀作曲 さまざまな風(初演)

水野修孝作曲 ヴィブラフォン独奏のための三章

プロコフィエフ作曲 ヴァイオリン・ソナタ第2番

当日の様子



受付



客席



「さまざまな風」演奏の様子



集合写真

3. 活動の達成度

・コロナ禍における準備

今年はコロナウイルスの影響により、変更が余儀なくされた点に多々直面した。第一に、感染拡大防止のため使用客席数を半数とし、全席指定での開催となった。チケットティングでは、入念な確認のもと座席を振り分ける必要があり、対応は例年以上に慎重さを要するものであった。予定枚数は約1週間には売り切ったものの、11月末の不要不急の外出自粛要請に伴い、キャンセルの増加が見込まれたため、ウェイティングリストとして対応できるよう準備していた。実際直前のキャンセルが数件あったため、ウェイティングリストからチケットを発行し、座席に大きな空きが出さずに済ませることができた。幸いなことに、当日は大きな混乱もなく案内、進行ができ、アンケートでは今後も座席指定を希望する声があったため、コロナ関係なく来年度以降も検討していきたい。

・広報活動

広報活動も大きく制限され、他団体のコンサート等での挟み込みができなかったため、チラシを捌くことが困難であった。その分 SNS やブログでの広報活動に注力し、なるべく更新頻度を多くすることでより目につくような情報発信を心がけた。特に、今年は珍しい編成であることをアピールし、より広い層からの集客を見込んでいた。今年の出演者の年齢が若いこともあってか、学生からの反響が例年以上に大きかったが、一般チケットについてはあまり伸びなかった。このリサイタルシリーズでは、高齢者の方も来場するため、コロナ禍で客足が鈍ったことも要因の1つだと考えられるが、大学内にとどまらず一般の方にも広く周知することが今後の課題だろう。

今年はプログラムについても充実の内容となった。学生が作る、手作り感がつくばリサイタルシリーズの売りでもあるので、来年以降も、曲目紹介・インタビューなどパンフレッ

トのコンテンツを充実させていく必要がある。

また、コロナ対策についてもブログで詳しくアップし、対策を十分行った上で実施することをアピールした。本番数日前にはメールにての文書を日本語・英語双方で送付し、協力していただけるよう準備しており、当日はトラブルもなく、対策についても評価する声をいただいている。

・予算、運営面

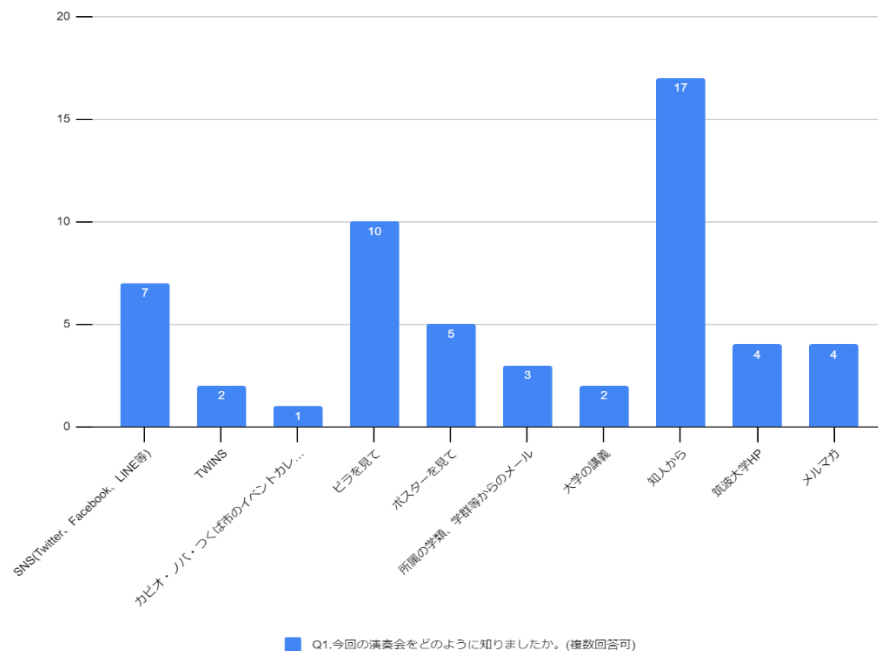
座席数減少によりチケット収入が半減することに加え、例年いただいていた茗溪会からの補助金が今年はないということで、資金面は厳しい見通しであった。しかし、つくば市によるアイラブつくばまちづくり支援事業に採択され、かつクラウドファンディングでの支援額が昨年から大きく増加したため、例年と同様の資金を確保することができた。クラウドファンディングでは、「コロナ禍での開催」を強調した点が功を奏したと考えられ、応援のメッセージでもその点に触れた方が多かった。

来年度以降は、企業広告の充実を図りたい。広告枠については昨年に大方定めた基準があるため、今年は飲食店へのアプローチは控えたが、大学の周辺飲食店などの広告収入の増加を目指していくべきだろう。

また、アイラブつくばも引き続き応募し、安定した資金確保を目指していく必要がある。

・アンケートからの分析

筑波大生に関しては、多くはオンライン授業であったため、大学 HP や SNS で情報を得ている人も多い。昨年と同様、知人から聞いて知ったという人が多かったため、人伝いでの告知による宣伝効果が大きかったように見える。また、ビラやポスターによる宣伝効果も確実にあるため、今後も継続していく必要がある。図書館や市の施設でもチラシを置いたため、より目につきやすい場所を委員でも探していくべきだろう。

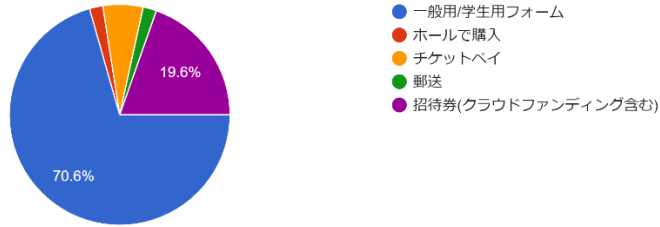


コンサートの長さに関しては、ほとんどの来場者がちょうど良いと回答しており、進行についても良い評価が非常に多かったため、来年度以降も継続していきたい。

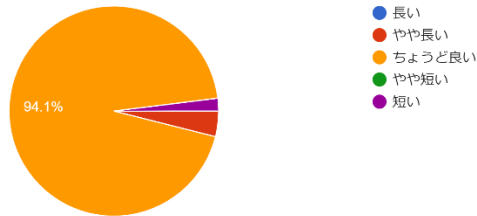
全体評価では、すべての来場者が満足またはやや満足の項目を選択していたため、非常に満足度の高い演奏会を実現できたのではないだろうか。特に、今回の編成への注目度も高かったが、好評の声が多かったため、このような新しい音楽についても開催の可能性が拓けたと言える。

年齢層は、約6割が大学生を中心とする10代～20代、3割強が40～50代という結果となり、例年以上に学生の来場が多かった。出演者の年齢や編成が学生の関心を引いたと考えられる。

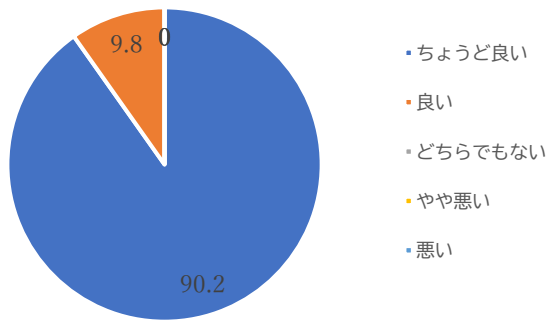
チケットの入手方法を教えてください。
51件の回答



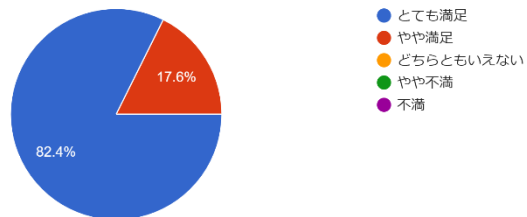
Q3-1.演奏会の長さはいかがでしたか。
51件の回答



Q3-2.演奏会の進行はいかがでしたか。



Q4.演奏会の全体的な満足度をお教えてください。
51件の回答



また、今年は会場内の混雑を避けるため、Google フォームでのアンケートを導入した。来場者にとっても、帰宅後に入力可能な点や集計のしやすさを踏まえ、今後もフォームでのアンケートを継続して良いだろう。

・運営体制

現3年生が不在のため、今年は2年生を中心に運営を行い、広報・渉外・会計・運営それぞれの部門に部長を置くことで仕事が偏ることなく配分できた。また、1年生にも積極的に参加してもらったため、今後の運営についても継続、改善しながら進めていけるだろう。

来年度は春と冬の2回開催が決定しており、経験が浅い現1年生や、来年の新1年生にも、より経験が積める機会となる。10回目という記念回になるため、「つくばリサイタルシリーズ」をより周知していけるよう、力を入れていきたい。

4. 総評

今年新型コロナウイルスの影響により、準備段階から様々な制約があった。中止を避けるため、工夫をしつつ議論し準備した甲斐あって、非常に満足度の高いコンサートを作り上げることができたのではないだろうか。文化事業が激減した今年、制限された中でもコンサートを開催でき、つくば市における文化振興という目的は達成できたように思う。このリサイタルシリーズも、徐々に認知度が上がっていると感じている。来年度も、地域に根差した高品質な演奏会を低価格で実現していきたい。